

【生薬名】川骨 *NUPHARIS RHIZOMA*

【起源植物】コウホネ *Nuphar japonicum*

【科名】 スイレン科 *Nymphaeaceae*



【別名】カワホネ(河骨、川骨)、ヤマバス(山蓮)

【薬用部分】根茎

【主成分】セキネン系アルカロイド(ハルジン、デヒドロハルジン)

【薬性】気味は甘寒、帰経は不明

【効能】●中枢麻痺、血管収縮、利尿、活血、強壯作用

●血のめぐりを良くして、血の鬱滞を治す。尿を出して浮腫、打撲傷に用いる

●月経不順、産前産後の出血に1日5~10gを煎服する

●鎮静作用があり、いわゆる血の道症でヒステリー等の神経の興奮や婦人病で気分のすぐれないものにも利用される

●利尿剤として浮腫、腎炎、膀胱炎に

●甘草と共に煎じて飲むと夜尿症に効くという

●腫れ物、切り傷、乳腺炎に生の根茎をすり下ろして患部に貼る

【出典】●虚を補い氣力を益すによい。久しく食すれば飢えず。脾胃を厚くす…。(本草拾遺)

●破瘀血、導新血、打撲損傷、微毒癰結、産後瘀血諸疾。(一本堂薬選)

【備考】●コウホネは中国本草書に記載のない植物で漢薬名はない

●葉と茎は食用出来る、生でも茹でてでも良いし、地下茎は皮を除けば食べられる

【処方例】●治打撲一方は日本の経験処方では打撲による腫れや痛みに使う

●実母散